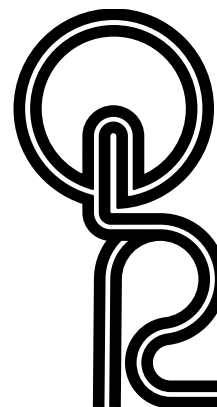


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 14 No.6, 2007



南極・昭和基地の南西約 200km の内陸氷床上にそびえる岩山「ボツンヌーテン (Botnnuten)」. 写真左から犬山 (1359 m)・西峰 (1472 m)・中央峰 (1480m)・東峰 (1450m). 第 47 次南極地域観測隊 (47 次隊) では , 50 年前 (1957 年) の 1 次隊以来 3 度目の登頂をはたし , 東峰と犬山から表面照射年代測定用の基盤岩試料 (計 60kg) を採取した . (2007 年 1 月 21 日 岩崎正吾撮影)

Vol. 14 No. 6

December 1, 2007

2007 年大会巡検報告 2	ネオテク研究委員会野外集会報告 . 5
2007 年大会緊急セッション関係 . . 3	幹事会議事録 6
「第四紀研究」推薦論文の募集 . . . 4	寒冷地形談話会例会案内 7
「第四紀学会」学会賞等の推薦募集 . 4	地球惑星科学連合 MN 案内 7
第四紀学会シンポジウム案内 . . . 5	会員消息 8

2007年日本第四紀学会神戸大会 巡検参加報告

「淡路島と東播磨平野の大阪層群および高位段丘層と活断層地形」

鈴木啓明（東北大学大学院理学研究科・院生）



野島断層保存館に保存された地震断層とその地下構造



地質境界断層としての野島断層の観察

神戸大会の巡検「淡路島と東播磨平野の大阪層群および高位段丘層と活断層地形」は、加藤茂弘（兵庫県立人と自然の博物館）、兵頭政幸（神戸大学）、佐藤裕司（兵庫県立大学）の3氏の案内で行われた。厳しい残暑の中、1日目（9月3日）に淡路島を、2日目（9月4日）に東播磨平野を巡った。

1日目は神戸大学を出発し、巡検バスの車窓から六甲・帝釈山地を望みながら高速道を移動、明石海峡大橋を渡り淡路島に入った。午前中は五色町都志付近の3箇所の露頭を訪れ、主に砂礫や砂、シルト、粘土、泥炭からなる大阪層群中部の層相と、それに挟まれる複数の凝灰岩層（倭文火山灰、研城ヶ丘1,2火山灰など）の観察を行った。

昼食後に訪問した野島断層保存館では、1995年兵庫県南部地震の際に現れた地震断層が約140mの区間にわたり、出現当時の生々しい姿で保存されていた。雁行した亀裂、低断層崖、横ずれで破壊された畦や水路などを観察でき、トレンチ展示区域では、断層の地下数mまでの構造が間近に見られた。震災の展示も豊富にあり、その痛ましさを改めて感じさせられた。

保存館を出た後、その周辺を歩き、地震断層の東方に位置する地質境界断層としての野島断層の断層露頭や、外帯に由来する結晶片岩の礫を含む大阪層群の砂礫層、神戸層群とみられる砂礫・砂・亜炭層などを観察した。さらに野島江崎灯台付近の石段の右横ずれを見学して一日目の行程を終え、播磨灘を望みながら東播磨平野北部の旅館へと移動した。

2日目の午前、東播磨平野内の左横ずれ断層である琵琶甲断層に沿って発達する谷の左横

ずれ屈曲と、断層露頭を観察した。露頭では、高位段丘の砂礫やシルトの層を切る数条に分岐した断層が観察された。また右横ずれ断層である草谷断層の断層露頭の観察も行った。ここでは、多量のチャートの礫を含む高位段丘および大阪層群の砂礫層を切る断層や、断層面に沿った礫の立ち上がりが観察された。

一方、加古川下流の右岸に位置する加古川市都台付近（河口から約12km内陸側）では、MIS7.3に堆積した海成層（大阪層群Ma11(2)層に相当）と、それに挟まれる加古川火山灰の観察を行った。この地域における地形面の数少ない年代指標である加古川火山灰を見つけ出すのに、参加者一同夢中であった。

東播磨平野南部の播磨町には弥生時代の大古遺跡があり、この遺跡に隣接して兵庫県立考古博物館が2007年10月に開館する。この巡検では、開館前の博物館の展示を特別に案内して頂いた。人骨や古代船の実体復元から昔の生活に思いを馳せた。館内は製作途中の展示コーナーも多く、完成が待ち遠しく感じられた。

最後に神戸市西区多聞町にて、MIS11に堆積したとみられる海成層やそれに挟まれる高塚山火山灰、貝化石の密集層を観察した後、神戸都心に戻り、2日間の行程を終えた。

私は学会の巡検に参加するのは今回が初めてであり、土地勘のある地域でもなく、ついて行けるか不安であった。しかし、案内者にわかりやすく説明を頂き、終始興味深く各地点を巡ることができた。同行の先生方、学生の方々との交流の機会にも恵まれた。

末筆ながら、ご案内下さった3名の先生方と関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



神戸市・高塚山海成層を背に巡検を締めくくる記念撮影（撮影：兵頭政幸）

2007年大会(神戸)緊急セッション『中越沖地震・能登半島地震』講演要旨(学会ホームページ公開)

すでに、本会メーリングリスト(jaqr-ML)でお知らせしましたように、2007年大会(神戸)緊急セッション『中越沖地震・能登半島地震』の講演要旨をホームページで公開しはじめました。どうぞ、御覧下さい。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html>

なお、閲覧・利用にあたっては以下の点をご了解下さい。

- (1) 著作権等の解決のため、各発表者には原稿の修正を学会からお願いしています。このため、会場または事務局で頒布した要旨集と内容が若干異なる要旨があります。
- (2) このサイトに掲載された要旨を引用する場合は、「四紀太郎、緊急セッション要旨の引用方法について、2007、日本第四紀学会緊急セッション講演要旨ホームページ公開版、<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/meeting/index.html>」などとしてください。
- (3) 各 pdf ファイルは印刷可能ですが、文字や図のコピー等は制限しています。
- (4) 準備ができた原稿から順次掲載となります。2007年11月14日現在の掲載論文は以下のとおりです。
 - E-1 趣旨説明 岡田篤正(立命館大)
 - E-2 2007年新潟県中越沖地震と活構造 渡辺満久(東洋大)ほか
 - EP-2(ポスター発表) SAR干渉画像による能登半島地震及び中越沖地震の地形変化抽出とその地形条件 宇根 寛(地理院)ほか
 - EP-3 2007年新潟県中越沖地震の静的断層モデルの検討：地殻変動・津波データとテクトニクスによる考察 田淵裕司(神戸大)ほか
 - EP-7 新潟県中越沖地震による柏崎市内の家屋被害分布とその要因 八幡 啓(首都大)ほか
 - EP-8 2007年新潟県中越沖地震における鯖石川旧河道での地盤液状化被害 三田村宗樹(大阪市大)ほか
- (5) 公開期限は2007年12月31日です。

第四紀研究「論文賞」と「奨励賞」の推薦論文の募集について

今年度の「論文賞」と「奨励賞」の推薦を下記のとおり受け付けます。これらの賞は、規定により、会員の皆様から自薦・他薦によって候補論文と候補者を御推薦頂き、論文賞受賞候補者選考委員会において受賞候補論文・受賞候補者の選考を6月末日までに行ないます。受賞論文と受賞者は、来年8月に開催予定の評議員会において決定され、2008年総会で表彰される予定です。

「論文賞」：会員を含む論文著者全員に授与。毎年1-2件程度。対象は、掲載された全ての論文（短報を含む）。

「奨励賞」：会員である筆頭著者に授与。年齢は選考年の4月1日で35歳以下。毎年1-2件程度。

つきましては、下記を御参照の上、「論文賞」の候補論文と「奨励賞」の候補者を御推薦頂きますよう、会員各位にお願い申し上げます。

1. 選考対象：「第四紀研究」第45巻（2006年）および第46巻（2007年）に掲載された論説、短報、総説、資料、講座および特集号の論文。「論文賞」の場合には著者に会員が含まれることが必要。「奨励賞」の場合は、筆頭著者が会員であること。
2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、賞の名称、「論文賞」の場合には全著者名と候補論文名（巻号頁を明記）および推薦理由を、「奨励賞」の場合は候補者名と候補論文名（巻号頁を明記）および推薦理由を記入する。
3. 推薦書類の提出先：
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519 洛陽ビル3階
日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会 宛
4. 推薦書類の受理期限 2008年3月31日（必着）

第四紀学会「学会賞」と「学術賞」の候補者推薦の募集について

2007年2月の評議員会において新設されることが決まりました「日本第四紀学会学会賞（以下、「学会賞」）」と「日本第四紀学会学術賞（以下、「学術賞」）」の受賞候補者の推薦受付を開始致します。来年6月末日までに、学会賞受賞候補者選考委員会が推薦された候補者の中から受賞候補者を選考し、評議員会において決定されることとなります。「論文賞」と重なった候補者の推薦も認められます。詳細については、会員名簿に掲載されている「学会賞規定」と「学会賞と学術賞選考に関する内規」をご覧ください。新たに設られた各賞の概要は以下の通りです。

「学会賞」：第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動および学会活動に貢献した会員に授与。学会における最高の賞。毎年若干名。

「学術賞」：第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた会員に授与。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象。対象成果が複数の著者（研究グループ等を含む）によりなされた場合は、筆頭著者または代表者に授与。毎年若干名。

つきましては、下記を御参照の上、「学会賞」および「学術賞」の候補者を御推薦頂きますよう、会員各位にお願い申し上げます。

1. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、賞の名称、「学会賞」の場合は候補者名および具体的な業績や活動内容を示した推薦理由を、「学術賞」の場合は候補者名および受賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名と推薦理由を記入する。
2. 推薦書類の提出先：
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519 洛陽ビル3階
日本第四紀学会 学会賞受賞候補者選考委員会 宛
3. 推薦書類の受理期限 2008年3月31日（必着）

日本第四紀学会主催シンポジウム

「考古遺跡から何がわかるか?: Geoaerchaeology」のお知らせ

下記のような内容で、第四紀学会主催のシンポジウムが行われます。参加費は無料で、事前登録は必要ありません(ただし、講演要旨集は有料となる可能性あり)。また、当日午前中、同じ会場にて評議員会が開催されます。

各講演のタイトルや時間配分などは変更になる場合があり、詳細は第四紀学会ホームページなどでお伝えします。

日時：2008年2月2日(土) 13:30～17:00

場所：東京大学法文2号館1番大教室(本郷キャンパス)

趣旨：考古遺跡は、過去の多様な人間活動と複雑な埋没後プロセスを経るため、提示された調査研究成果はほとんどの場合、断片的にならざるを得ない。年代、人間行動、遺跡景観といった基本的な点さえ復元できないことがしばしばである。近年、過去の人間-自然相互作用環の復元が求められるようになってきているため、これらの詳細な分析と再構成がますます重要性を増している。このような研究目標を達成するための地考古学の具体的な取り組みを報告し、その有効性について議論する。

プログラム(案)

- 13:30-13:50 地考古学が考古学に果たす役割(佐藤宏之)
- 13:50-14:20 大阪平野の沖積低地における地形形成過程と土地利用(井上智博)
- 14:20-14:50 武蔵野台地における旧石器時代石器ブロックの形成過程(野口 淳)
- 14:50-15:00 休憩
- 15:00-15:30 北海道上幌内モイ遺跡旧石器地点の自然形成過程(出穂雅実)
- 15:30-16:00 北海道上幌内モイ遺跡旧石器地点の空間組織(中沢祐一)
- 16:00-16:15 地考古学の実行レベルでの課題(早田 勉)
- 16:15-16:30 第四紀学からのコメント(町田 洋)
- 16:30-17:10 総合討論

* 発表タイトルは、一部変更になる可能性もあります。

世話人：佐藤宏之(東京大学)・出穂雅実(札幌市埋蔵文化財センター)

問い合わせ先：佐藤宏之 東京大学大学院人文社会系研究科

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 TEL・FAX: 03-5841-3793・3795

ネオテクトニクス研究委員会 2006-2007年野外集会

「能登半島の海成段丘と活断層」の参加報告

本学会ネオテクトニクス研究委員会主催の野外集会が、8月9日～11日に能登半島でおこなわれた。参加者は案内者(2名)の吾妻 崇会員(産業技術総合研究所活断層研究センター)、太田陽子名誉会員(横浜国大名誉教授)を含む総勢11名と少数精鋭であった。参加者の職種は、学生1名、高校教員1名、民間会社職員4名、公務員2名、弁護士1名であった。

初日には、2007年能登半島地震による被災地の様子、海岸隆起を観察した。2日目は、能登半島に発達する海成段丘の観察とM1面構成

層である平床貝層、それを不整合で覆うM2面構成層、M2面構成層に挟まれる三瓶-木次軽石(SK)、千枚田(崩壊地形とその土地利用)、変動地形である。また、2日目の宿舎で研修会がおこなわれた。研修会では案内者の吾妻・太田の両会員、国土地理院の宇根 寛会員と佐藤浩会員から計5件の話題提供があった。その内容は、今回の巡検のテーマである能登半島の海成段丘と活断層、2007年能登半島地震、2004年新潟県中越地震に関するものであった。3日目は邑知潟断層帯の変動地形などを観察した。

今回の巡検に参加して、次のようなことを勉強し、それなりの成果を得た。

能登半島に発達している海成段丘は10段以上もあり、日本でも非常に特異な地域として知られている。しかも、それらの段丘面は活断層によって変位を受けており、能登半島の付け根の邑知低地帯の形成に関しても活断層と係わりをもっている。能登半島の地形を観察したことは、秋田県の八郎潟低地帯、男鹿半島、能代平野の地形を研究するものにとって非常に興味深かった。特に、能登半島に発達する海成段丘の編年については、M1面とM2面の段丘面とその構成層との関係の説明は、地形と地質との関係を考えるうえで大変参考になった。それは、かつてM1面構成層と考えられていた平床貝層（現在天然記念物に指定）とその下位の段丘面であるM2面の構成層と考えられていた宇治貝層は貝化石群集の違いから別の段丘構成層と考えられていたことが、M2面を構成する海成砂礫層が宇治貝層を不整合に覆うことと、平床貝層と宇治貝層に含まれている単体サンゴ化石の

ウラン系列の年代測定から同じ年代値が得られたこと、広域テフラ・SK（M2面構成層に挟まれたSKを観察した）の発見からM1面とM2面の形成年代と構成層の関係が明らかになったことなどである。また、能登半島の活断層に関しては、古君付近でM1面を変位させている古君断層の逆向き低断層崖と撓曲変形を観察したこと、邑知低地帯を形成させた眉丈山断層と石動山断層の変位地形（段丘化した扇状地の逆傾斜、L面の増傾斜運動による変位）を観察したことが印象に残った。

今回の巡検に参加し、能代平野や男鹿半島の変動地形を研究するうえで非常に参考になった。太田名誉会員のわかりやすい説明、その中で調査当時のエピソード（いわゆる裏話的なことなど）も交えて説明してもらい非常に勉強になった。

その他として、地すべり地形を利用した棚田（千枚田とよばれ、天然記念物に指定されている）や石灰岩地域の地形であるドリーネを観察できたことは大きな収穫であった。

（能代市立能代商業高校 栗山知士）

日本第四紀学会2007年度第2回幹事会議事録

日時：2007年9月30日（日）13:00-18:00

会場：日本大学文理学部8号館レクチャーホール

出席：町田 洋（会長） 遠藤邦彦（副会長） 水野 清秀、百原 新、公文富士夫、鈴木毅彦、佐藤宏之、三浦英樹、吾妻 崇、中川庸幸（春恒社）

1. 庶務

- ・転載許可申請承認（2件）
- ・会費未納者への対応

10-11月に2度目の確認作業を事務局が実施する予定。会誌送付停止前までの会費を払うよう依頼する。未納による退会者はできるだけ少なく抑えたい。

- ・科研費（研究成果公開促進費）への申請

A:理工系の場合の英文50%以上をクリアできていないので申請せず。

B:昨年は申請したが採択されず。大阪大会のときには採択された。公開講座は中学生程度を対象とするレベル。

2. 会計

- ・2007年大会に伴う支出

大会準備金についての報告をまだ受けていない。

3. 編集

- ・編集状況

46巻6号は津波特集。47巻1号まで準備済み。

・再討論の申し立てがあったが、基本的に1回の討論で終わらせるようにしたい。

・J-STAGEより確認依頼があったGoogleへのリンク申請について審議し、これに登録することにした。

・講習会の内容を「研究ノート」として掲載することを検討。

4. 企画

- ・08年2月のシンポジウム

2/2（土）を第1候補日とし、午前中に評議員会、午後にシンポジウムを開催する。テーマはgeoarchaeologyとし、専門研究者からの発表（明治大学校地内、北海道、大阪）のほか、関連分野研究者からのコメント発表をつける。場所は東大、2月2日（土）が候補

- ・講習会

石器製作技術、土器製作、金属器製作について検討中。博物館とタイアップしての実施も考慮。年長者だけでなく中学生程度も対象者に含める。植物化石に関する講習会（八王子付近）も候補として検討した。

5. 広報

- ・「第四紀通信」のフォントの大きさを検討

- ・学会ホームページだいよんきQ&Aの対応

HP掲載の必要性については担当幹事が判断。載せる場合には質問者の職種と都道府県を併記することについて検討した。

- ・神戸大会緊急セッション要旨公開

- ・幹事会MLの更新

6. 行事

- ・2008年大会

日程は8/22（金）- 8/24（日）が有力候補。会場は一般研究発表が東大本郷キャンパス（300人程度）、ポスター展示会場は今までの開催例を参考に検討（50件程度）、評議員会は30人程度。普及講演の会場は大学外でも良いが、大会日程と連続することを基本とする。懇親会は150名程度の出席者を見込む。巡検は、房総北部（銚子付近からつくば方面もしくは九十九里方面）で検討。

7. 渉外

- ・連合大会レギュラーセッション名は暫定的に現状

のままとする。

・環境省の生物多様性国家戦略(案)への意見募集
対応

8. その他

1) 知的財産権

・発表要旨に関する著作権取扱い
・知財検討委員会への諮問文の検討

2) 研究委員会

・INQUAのCommission, International focus groupのprojectに対応した委員会活動を募集するほか、必要と考えられるプロジェクト(PALCOM対応など)があれば幹事会審議のうえ提案を諮る。
3) 50周年実行委員会
コンビナーがプログラムを編集中。来週以降に大会委員会で要旨集を作成。

以上

寒冷地形談話会12月例会のお知らせ

寒冷地形談話会の12月例会を開催します。寒冷地、山地、丘陵地に関わる地形、気候、植生などについての幅広い話題提供の場です。研究発表だけではなく、海外での写真など普段目にする事のない資料を紹介する場も設けています。専門、発表の有無に関わらず大勢の方の参加をお待ちしています。学部学生、院生の方の参加(もちろん発表も)も歓迎します。非会員の方の発表、参加も歓迎します。

発表プログラムは決まり次第、寒冷地形談話会ホームページに掲載します。

<http://www.geo.ees.hokudai.ac.jp/kanreichikei/>

1. 日時: 12月15日(土) 10:00もしくは13:00 ~

2. 会場: 立正大学大崎キャンパス 第6会議室

3. 発表申し込み: 〆切 12月10日 18:00 申込先 mseto@ris.ac.jp

立正大学大崎キャンパスのご案内

http://www.ris.ac.jp/guidance/cam_guide/osaki.html

研究発表、写真上映の2つを軸としますが、特に内容に制約を設けません。活発な発表、話題提供をお願いいたします。講演時間は20分+質疑応答10分を基本としますが申込件数によって調整することがあります。

例会終了後、会場付近にて懇親会を予定しています。

【寒冷地形談話会事務局】

瀬戸真之(立正大学地球環境科学部)

mseto@ris.ac.jp

日本地球惑星科学連合メールニュース発刊のお知らせ

日本第四紀学会メーリングリスト(jaqr-ML)でもご案内しましたが、本学会も加盟している日本地球惑星科学連合よりメールニュース(MN)発刊の案内がありました。このメールニュースはjaqr-MLには転送いたしませんので、購読に関心のある方は各自で登録をお願いいたします。

日本地球惑星科学連合加盟学協会の皆さま

この度、「日本地球惑星科学連合メールニュース」(メールニュース)を発行することに致しましたのでお知らせいたします。これは、従来年2回配信しておりました「日本地球惑星科学連合ニュース」(連合ニュース)及び連合大会の情報を配信しておりました「一斉メール」を発展的に統合するものです。毎月1回定期的にメール配信するとともに、必要に応じて随時配信する予定です。

メールニュースでは、日本の地球惑星科学分野の最新の情報を集約して、関係者にご提供いたします。内容は、連合や学術会議、加盟学協会などからのお知らせ、地球惑星科学分野

の動向、イベント情報、公募情報などです。連合ホームページとも連動して、重要な情報を迅速にご提供するように致します。

ただし、現在連合から直接配信できるのは、連合ホームページで個人情報登録をいただいた方々に限られます。従来の「連合ニュース」のように、加盟学協会の会員全員には情報が行きわたりにせん。したがって、各学協会におかれましては、理事会・運営委員会などの主要メンバーの方々はもちろん、学協会の会員の皆さま全員に連合の個人情報登録を促していただけますよう、ぜひお願い致します。登録は無料です。下記URLから登録することができます。

<http://www.jpogu.org/meeting/entry.html>

また、加盟学協会におかれましては、地球惑星科学コミュニティ全体に対する情報発信のためのメディアとしても積極的にご利用下さい。さまざまな情報提供をお待ちしております。掲載を希望される情報がありましたら、連合事務局 (office@jpogu.org)までご連絡下さい。

どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

日本地球惑星科学連合・運営会議議長 木村 学

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：苅谷愛彦 (kariya@isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 苅谷愛彦
〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 電話 044-911-1014 Fax044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDF ファイルを閲覧できます。